

## ■ウィンド Etc. (風のエトセトラ)

# 村上への旅～風車を見ながら～

関越自動車道を北に向かって走っている。最終目的地は新潟県村上市。今では新潟から先も高速道路が出来ているので、車でも東京から4時間もあれば着いてしまう。

40 数年前 20 歳だった私は大学の後輩と二人で自転車を漕いで国道 17 号線の三国峠を登っていた。その時三国トンネルは工事中で道路には水があふれ横をトラックが走り抜けるという怖い思いをしながら通り抜けたのを覚えている。しかしトンネルを抜けるとしばらくは長い下り坂。登りでかいた汗がスーと引いていく。モンシロチョウが頬をかすめ白い痕跡を残していく。村上までの約 400 キロを 3 日かけて走った。あのころの体力は無尽蔵だった。飲み物と食べ物があればいつまでも走り続けることが出来ると思っていた。

今は同じ大学のバレーボール部の仲間と車で楽々と峠を超えて昔話に花を咲かせているうちに村上を超えて酒田港に到着。今夜の宿は湯野浜温泉だがその前に酒田の風車を見に来た。車で風車の近くまで行って見たあと、展望台に登ると港内の様子がよく見える。有名な水路の中に建つ風車も見て満足して宿へと向かった。宿は亀屋という由緒のある旅館だそう。昔は天皇陛下もお泊りになったとのことだったが、今は温泉町全体に活気はあまりなく旅館以外に店はほとんどなかった。自慢の海に沈む夕日はうす雲にかかっていたが、かろうじて雰囲気を楽しむことが出来た。しかし翌朝は快晴で素晴らしい海の景色を堪能することが出来た。

翌日、この旅行の本来の目的地である村上に向かう。ここには大学のバレーボール部の 1 年先輩のお墓がある。4 年前にがんで亡くなった。亡くなる前は村上市の市議会議員をやっていた、商工部会を担当していたと聞いた。もし生きていたら村上市岩船沖の洋上風力発電の積極的推進派になっていたに違いないと思う。

村上市内の小さなお寺の小さな墓地に先輩は眠っている。「先輩今年も来ましたよ」と挨拶をしてお花とお線香を手向けた。いつも 6 月なのでたいてい雨が降っているが、今年は珍しく初夏の日差しがさしていたので墓石に水を

かけてきれいにしながらみんなでひとしきり昔話をして 15 分程で引き上げる。

そのあとはこの旅行のもうひとつの目的である買い物ツアーに移る。まず行くのは酒屋。ここでは地元の酒「メ張鶴」を買う。次は米屋。ここでは「岩船産コシヒカリ」を買う。最後は漁港近くの鮮魚センターへ。新鮮で安い魚がたくさん揃っている。このためにみんなアイスボックスを持参して大量の海産物を仕入れる。

この墓参りを口実にした温泉&買い物ツアーは今年で 4 回目となり恒例行事となってしまった。さらに途中で風車を見るというものいつの間にかお約束になってしまった。1 年目は布引高原、2 年目は新発田、3 年目は完成直前の胎内風力で今年は酒田港となった。

墓の中の先輩は「お前たち何しに来てるんだ」と怒るかもしれないけれど、「まあ、いいか」と言いながら「来年はどこに泊まろうかと」早くも来年の宿泊地の話題で盛り上がった仲間たちだった。

J. J



完成間近の胎内風力発電所 (2014 年 6 月)



酒田港展望台から見た水路に立つ風車